◆◆◇◆　第550回　薬事情報センター定例研修会　◆◇◆◆

2023年1月14日

■薬事情報センターだより 資料２　研修会概要、研修関連資料等 → https://www.hiroyaku.jp/di/training/2181/

２．医療事故防止のための情報 ……p **46**

http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/　【(公財)日本医療機能評価機構】

◆薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業　共有すべき事例　2022年No.10、11

３．今月のトピックス ……p **52**

◆カゼに使う漢方薬について（お薬相談電話 事例集 No.139）

https://www.hiroyaku.jp/di/files/case/　（会員専用ページ）　【薬事情報センター】

◆“新しく”、“正しい”医薬品等情報の入手と提供（第20回）

どうしてる？！『漢方処方』の服薬指導につなげる情報入手

～最新の医薬品・医療情報を電子的に入手、活用する～

https://www.hiroyaku.jp/di/files/letter/　（会員専用ページ）　【薬事情報センター】

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2022年
No.10
事例1

調剤

一包化調剤における薬剤間違い

事例

【事例の詳細】
患者にカルベジロール錠10mg「サワイ」を含む11種類の薬剤が42日分処方され、自動錠剤分包機で一包化調剤を行った。分包された薬剤を鑑査した際、42包中5包にカルベジロール錠10mg「サワイ」ではなくデュタステリド錠0.5mgAV「DSEP」が混入していることに気付いた。

【背景・要因】
以前に、別の患者の一包化調剤を行った際、分包紙の印字間違いがあり、分包し直した。デュタステリド錠0.5mgAV「DSEP」を分包紙から取り出し自動錠剤分包機に再充填する際、誤って、錠剤の色が類似しているカルベジロール錠10mg「サワイ」の錠剤カセットに充填した。GS1コードがない状態の薬剤を錠剤カセットに充填する際は、薬剤師2名で目視にて薬剤名と錠剤カセットの表示が一致するか確認する手順であったが、この時は1名で行った。

【薬局から報告された改善策】
自動錠剤分包機へ薬剤を充填する時は、錠剤カセットの表示と充填する薬剤が一致しているか確認する。今回の事例を薬局内で共有し、錠剤カセットへ薬剤を充填する際は取り決めた手順を遵守することを改めて周知する。

その他の情報

販売名	カルベジロール錠10mg「サワイ」	デュタステリド錠0.5mgAV「DSEP」
製品画像		
薬効分類	持続性 高血圧・狭心症治療剤 慢性心不全治療剤／ 頻脈性心房細動治療剤	前立腺肥大症治療薬
剤形	割線入りフィルムコーティング錠	フィルムコーティング錠
色調	黄色	淡黄色
直径／厚さ	7.1mm ／ 3.4mm	7.1mm ／ 3.2mm
	沢井製薬株式会社ホームページより （参照2022年9月14日）	第一三共エスファ株式会社ホームページより （参照2022年9月14日）

事例のポイント

- 本事例は、一包化調剤をやり直す際、分包紙から取り出した薬剤を別の薬剤の錠剤カセットへ充填したことにより、誤った薬剤が分包された事例である。一度分包した薬剤を分包紙から取り出し自動錠剤分包機へ再充填する場合は、薬剤の刻印・印字から薬剤名を特定したうえで、錠剤カセットの表示と充填する薬剤名が一致するか複数人で確認することが重要である。また、目視による確認だけではなく、指差し声出し確認を行うことも検討するとよい。
- 自動錠剤分包機への充填間違いは、複数の患者に重大な影響を及ぼす可能性がある。自動錠剤分包機へ薬剤を充填する際は、錠剤のPTPシートやバラ錠包装に表示された薬剤名と錠剤カセットの表示を複数人で確認することが重要である。また、PTPシートやバラ錠包装と錠剤カセットのGS1コードを照合する機器を活用することも有用である。
- 一包化調剤における薬剤間違いは、全ての包装ではなく一部の包装で起きることがある。薬剤間違いを発見するためには、分包された薬剤と数量が処方内容と一致するか一包ずつ確認することが重要である。
- 本事例では、自動錠剤分包機に薬剤を充填する際、薬局で取り決めた手順で行っていなかった。業務手順を取り決めるだけではなく、遵守することをスタッフに周知することが重要である。また、手順を遵守しなかった場合はその背景・要因を分析し、手順や体制の見直しの検討を行うとよい。

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

2022年
No.10
事例2

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

疑義照会・処方医への情報提供

病態禁忌

事例

【事例の詳細】
患者にゾルピデム酒石酸塩錠10mg「テバ」が処方された。患者から肝障害があることを聴取していたため、処方医に肝障害の重症度を確認したところ、肝硬変であることが分かった。ゾルピデム酒石酸塩は重篤な肝障害のある患者に禁忌であることを処方医へ伝えた結果、トリアゾラム錠0.25mg「日医工」に変更になった。

【推定される要因】
処方医は、ゾルピデム酒石酸塩が重篤な肝障害のある患者に禁忌であると認識していなかった可能性がある。

【薬局での取り組み】
患者の病態や腎機能、肝機能等を把握したうえで、処方監査を行う。

その他の情報

ゾルピデム酒石酸塩錠5mg/10mg「テバ」の添付文書　2022年7月改訂（第11版）（一部抜粋）
【禁忌】（次の患者には投与しないこと）
（2）重篤な肝障害のある患者〔代謝機能の低下により血中濃度が上昇し、作用が強くあらわれるおそれがある。〕

事例のポイント

- 肝障害のある患者にゾルピデム酒石酸塩が処方された場合は、重篤な肝障害のある患者に禁忌であることを処方医に情報提供したうえで、肝障害の重症度を確認する必要がある。
- 薬剤師は、処方された薬剤の病態禁忌に患者が該当するか否かを検討するために、日頃から患者の既往歴・現病歴や検査値などを把握しておくことが重要である。
- 本事業部が運営している医療事故情報収集等事業は、第69回報告書（2022年6月公表）の「再発・類似事例の分析」で「禁忌薬剤の投与（医療安全情報No.86）」を取り上げ、医療機関から報告された事例の内容、背景要因、改善策などを掲載している。
https://www.med-safe.jp/pdf/report_2022_1_R001.pdf

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2022年
No.10
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

医療機関変更時における処方間違い

事例

【事例の詳細】
紹介状を持って医療機関Aを受診した患者にヒダントールF配合錠が処方された。患者は当薬局を利用するのは初めてであり、お薬手帳も持参しておらず薬剤服用歴を確認することはできなかった。販売名に「ヒダントール」を含む薬剤には配合剤も含めると複数の種類が存在するため、念のため処方医に確認したところ、紹介状には規格等の記載はなかったと回答があった。紹介元のクリニックBに問い合わせてヒダントール錠100mgを処方していたことがわかったため、処方医に情報提供を行った結果、ヒダントール錠100mgに変更になった。

【推定される要因】
処方医は、薬品マスタに登録されていたヒダントールF配合錠を選択した可能性がある。

【薬局での取り組み】
患者が治療を受けていた医療機関とは別の医療機関を受診し、複数の規格等がある薬剤が処方された際は、処方薬が適切に継続されているかを確認するために患者や医療機関から情報収集を行うようスタッフに周知した。

その他の情報

販売名	ヒダントール錠100mg	ヒダントールF配合錠
有効成分	1錠中 フェニトイン　100mg	1錠中 フェニトイン　25mg フェノバルビタール　8.333mg 安息香酸ナトリウムカフェイン 16.667mg
薬効分類	抗てんかん薬	抗てんかん薬

2022年9月14日現在

事例のポイント

●販売名に「ヒダントール」を含む薬剤には、有効成分がフェニトインのみのヒダントール錠25mg/100mgと、フェニトインの他にフェノバルビタール、安息香酸ナトリウムカフェインを含有する配合錠が3種存在する。抗てんかん薬の処方間違いは、過量投与による重篤な副作用の発現や過少投与による発作の出現など、患者への影響が大きい。医療機関が変更された際、販売名に「ヒダントール」を含む薬剤が処方された場合は、患者が継続して服用している薬剤と同じ薬剤が処方されているか確認することが重要である。

●患者の治療を別の医療機関で継続する際は、服用中の薬剤の情報を医療機関間で正しく引き継ぐ必要がある。処方箋を応需する薬局においても、薬剤師は患者の薬剤服用歴を把握したうえで処方監査を行い、処方内容に疑義がある場合は処方医に確認することが重要である。

●別の医療機関から治療を引き継いだ医療機関の処方箋に疑義が生じた場合、処方した医療機関に疑義照会を行うだけでは疑義が解消されないことがある。本事例は、薬剤師が紹介元の医療機関に問い合わせを行い、患者の薬剤服用歴を把握したうえで処方医へ情報提供を行った好事例である。

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2022年
No.11
事例1

調剤

不適切な薬剤変更

事例

【事例の詳細】

患者に【般】アンブロキソール塩酸塩徐放口腔内崩壊錠45mg1回1錠1日1回14日分が処方された。当薬局にはアンブロキソール塩酸塩徐放OD錠45mg「ZE」の在庫が7錠しかなかったため、7日分を先に渡し、残り7日分は薬剤を取り寄せて渡すことにした。しかし、卸業者に薬剤を発注した際に製薬企業による出荷調整等により先発医薬品・後発医薬品いずれも入荷困難で納入できないと伝えられた。薬剤師Aは、不足分は在庫があるアンブロキソール塩酸塩錠15mg「タイヨー」に変更しようと考え直し、処方医に連絡することなく初めの7日間はアンブロキソール塩酸塩徐放OD錠45mg「ZE」を服用、その後の7日間はアンブロキソール塩酸塩錠15mg「タイヨー」を服用するよう患者に説明して交付した。その後、薬剤師Aは在宅訪問から戻ってきた薬剤師Bに今回の対応について報告した。対応の間違いに気付いた薬剤師Bが医師に連絡したところ、アンブロキソール塩酸塩徐放OD錠45mg「ZE」を1回1錠1日1回で7日間服用後、アンブロキソール塩酸塩錠15mg「タイヨー」を1回1錠1日3回で7日間服用するよう処方変更になった。

【背景・要因】

薬剤師Bが不在で、経験年数の浅い薬剤師Aが一人で対応した。薬剤師Aは、必要な薬剤が納入されないと聞いて焦りが生じ、徐放OD錠と普通錠の違いは知っていたが、対応を誤った。

【薬局から報告された改善策】

同一成分の徐放錠、崩壊錠など製剤特性が異なる薬剤に関する知識や変更調剤における注意事項を、薬剤師及びレセプト入力業務を担当する事務員で共有する。薬剤を取り寄せる場合は納期を確認してから焦らずに対応する。薬剤師が一人体制になる時間を減らすようシフトを組む。薬剤師が薬局内に一人になることが避けられない場合には、その際に起きた出来事を薬剤師間で共有する。

その他の情報

アンブロキソール塩酸塩徐放OD錠45mg「ZE」の添付文書　2015年9月改訂（第3版）（一部抜粋）

【組成・性状】
本剤は速放性顆粒及び徐放性顆粒を含有する口腔内崩壊錠である。
【用法・用量】
通常、成人には1回1錠を1日1回経口投与する。

アンブロキソール塩酸塩錠15mg「タイヨー」の添付文書　2016年10月改訂（第16版）（一部抜粋）

【組成・性状】
白色の片面1/2割線入り素錠
【用法・用量】
通常、成人には、1回1錠を1日3回経口投与する。

事例のポイント

- ●アンブロキソール塩酸塩徐放OD錠は普通錠とは製剤特性が異なるため、疑義照会を行わずに薬剤師の判断のみで変更して調剤することはできない。
- ●現在、一部の医療用医薬品について、製造・供給停止による供給不足が相次いでおり、当該薬剤に限らず、同様の事例が発生する可能性がある。
- ●処方された医薬品が入手できない場合、他剤への変更を検討する必要がある。そのような状況でも焦らず適切に調剤できるように、業務手順書を作成し全体の流れを把握しておくほか、具体的な対応手順について薬局内で研修を行うことが有用である。
- ●薬剤師Aが一人だけの時間帯で行った行為を薬剤師Bに報告したことで、対応の間違いが速やかに発見された。医療事故防止にはスタッフ間での情報共有が重要である。

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2022年
No.11
事例2

調剤

お薬手帳のシール貼り間違い

事例

【事例の詳細】
患者Xにお薬手帳を渡そうとしたところ、手帳は持ってきていないと言われた。お薬手帳を確認すると患者Yのもので、それに患者Xのシールが貼られていた。すでに薬剤交付済みであった患者Yに電話すると、シールのみ渡していたことがわかった。患者Yに謝罪し、お薬手帳にシールを貼り直して返却した。

【背景・要因】
疑義照会により患者の順番がずれた。処方箋とお薬手帳は一緒に管理すると取り決めていたが、慣れによる手順の不遵守により行わなかった。お薬手帳を持ってきていない患者の処方箋には「手帳なし」の札を添付していたが、シールの氏名の照合や記載内容の確認をしなかったため間違いに気付かなかった。

【薬局から報告された改善策】
処方箋とお薬手帳は一緒に管理する、お薬手帳とシールを取り扱う時は必ず処方箋に記載されている氏名と照合する、処方箋の「手帳なし」の札の有無を確認する、というルールをスタッフ間で再確認した。

事例のポイント

- お薬手帳へのシール貼り間違いは、その情報を基に誤った治療につながる可能性があるため、各業務工程において、お薬手帳とシールの氏名を処方箋と照合する必要がある。
- お薬手帳は、薬剤服用歴などの情報を一元的かつ経時的に、管理するための有用なツールである。 調剤設計の土台となる患者情報の取り違えが起こらないよう、お薬手帳の取り扱いや処方箋・薬剤服用歴との照合などについて具体的な手順を定め、遵守する必要がある。
- 本人以外に間違って渡した場合、お薬手帳およびそのシールは個人情報の漏えいに該当する。個人情報について社会の意識が高まっていることを踏まえ、薬局でお薬手帳とシールを取り扱う際の業務工程のどこにリスクがあるか洗い出し、スタッフ全員がルールの遵守を徹底する意識を持つことが重要である。

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2022年
No.11
事例3

一般用医薬品等

受診勧奨(薬剤服用歴)

事例

【事例の詳細】
【般】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合口腔内崩壊錠を服用中の70歳代患者の家族が来局した。患者本人が涙がたくさん出て見えづらいと訴えるので市販の点眼薬を購入したい、と相談を受けた。聴取した患者の状況から、抗がん剤による流涙の可能性が考えられた。防腐剤無添加の人工涙液を販売し経過観察するという選択肢もあるが、総合的に判断して速やかに医療機関を受診するよう勧めた。

【背景・要因】
患者は抗がん剤の副作用について説明を受けたはずだが、十分に理解しておらず、主治医に眼の自覚症状について相談しなかった可能性がある。

【薬局から報告された改善策】
抗がん剤の副作用が疑われる際の対応方法を把握するため、添付文書だけではなく医薬品の適正使用ガイドや患者用の服用のてびきなどを日頃から確認しておく。

その他の情報

＜参考＞注意すべき自覚的副作用とその対応　流涙※

ティーエスワンによる流涙は半数の症例が投与開始から3ケ月以内に発現しています。軽度の例ではティーエスワン投与中止により軽快していますが、涙道狭窄の見られる重度の症例では眼科的処置が必要です。そのため流涙が持続する場合や流涙の程度が強い場合には、涙道の狭窄や閉塞が発生していることも考えられることから、眼科医に相談し、適切な処置をとることになります。

※大鵬薬品ホームページ　ティーエスワン医療関係者向け総合情報サイト
（参照2022年11月01日）
https://www.taiho.co.jp/medical/brand/ts-1/

事例のポイント

- 本事例は、一般用医薬品の購入を目的として来局した家族から、聴取した情報をもとに抗がん剤による副作用を疑い、受診勧奨を行った事例である。
- 抗がん剤による眼の副作用は、早期であれば抗がん剤の中止によって改善することもあるが、不可逆的変化をきたす可能性があるので速やかに対応する必要がある。
- 一般用医薬品の販売は、使用者の症状や病歴、薬剤服用歴などを把握したうえで、適切に対応することが重要である。
- 近年、通院でがん化学療法を受ける患者が増えており、薬局薬剤師にはプロトコールに基づく薬物療法の管理が求められている。日頃から知識を深め、一般用医薬品の販売時にもその知識を活用することが重要である。

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。

お薬相談電話 事例集 No.139

薬事情報センター

カゼに使う漢方薬について

Q. カゼをひいたときのために、市販の漢方薬を買っておきたいのですが、どのように選べばよいでしょうか？

A. カゼに使われる漢方薬は、良く知られている葛根湯の他、さまざまなものがありますが、その方の証（体質や体力）や症状によって適する漢方薬は異なってきますので、選ぶ際には店舗の薬剤師にご相談ください。なお、市販薬をしばらく服用しても症状が改善しない場合は、医療機関を受診してください。

【解説】

国立医薬品食品衛生研究所が公開している『漢方セルフメディケーション』サイト[2]では、患者さんの悩み別（胃のトラブル、腸のトラブル、頭痛、カゼ（症状別）、カゼ（経過別）、尿のトラブル、女性の体調トラブル、神経症）に適した漢方薬を探すことができるようになっています。今回のカゼについては、症状別と経過別で以下の漢方薬が掲載されています。（図１、図２）（参考：漢方セルフメディケーション[3,4]）

・『漢方セルフメディケーション』サイトは、薬事情報センターウェブサイト『お役立ちリンク集』[1]に掲載しております。

・構成生薬について詳細を確認したい時は、富山大学和漢医薬学総合研究所が公開している『伝統医薬データベース』[5]もご参考ください。

図１　カゼ（症状別）（参考：漢方セルフメディケーション[3]）

証（体力・体質）	鼻炎	せき・たん	熱	頭痛
虚弱	**補中益気湯**（食欲がなく、胃腸のはたらきがおとろえ、疲れやすい）			
		麦門冬湯（たんが切れにくい、からぜきなど、のどの乾燥感がある）		
	小青竜湯（色の薄い鼻水やたんが出る）			
			柴胡桂枝湯（腹痛や吐き気を伴ったり、頭痛や微熱が続く）	
		半夏厚朴湯（のどに異物感があるせきや吐き気）		
	葛根湯加川芎辛夷（鼻づまり、慢性鼻炎）		**小柴胡湯**（頭痛や微熱が続いたり、食欲がなくなったり、胃痛がある）	
	辛夷清肺湯（粘った鼻水が出る、慢性鼻炎）	**葛根湯**（汗がなく、悪寒や肩こりがある）		
		五虎湯（咳が強く出る）		
充実	**麻黄湯**（汗がなく、悪寒、発熱、頭痛、関節痛がある）			

図２　カゼ（経過別）（参考：漢方セルフメディケーション[4]）

証（体力・体質）	ひきはじめ	中期（３～５日）	こじれた時
虚弱			**補中益気湯**（食欲がなく、胃腸のはたらきがおとろえ、疲れやすい）
		麦門冬湯（たんが切れにくい、からぜきなど、のどの乾燥感がある）	
	小青竜湯（色の薄い鼻水やたんが出る）		
	柴胡桂枝湯（腹痛や吐き気を伴ったり、頭痛や微熱が続く）		
			半夏厚朴湯（のどに異物感があるせきや吐き気）
		小柴胡湯（頭痛や微熱が続いたり、食欲がなくなったり、胃痛がある）	
	葛根湯加川芎辛夷（汗がなく、悪寒や肩こりがあり、鼻づまりがひどい）		
	葛根湯（汗がなく、悪寒や肩こりがある）		**辛夷清肺湯**（粘った鼻水が出る、慢性鼻炎）
	五虎湯（咳が強く出る）		
充実	**麻黄湯**（汗がなく、悪寒、発熱、頭痛、関節痛がある）		

【参考資料】各サイトはいずれも2022-11-15確認
1）薬事情報センターウェブサイト『お役立ちリンク集』
https://www.hiroyaku.jp/di/links/
2）漢方セルフメディケーション（国立医薬品食品衛生研究所）
https://www.kampo-self.jp/
3）漢方セルフメディケーション　カゼ（症状別）
https://www.kampo-self.jp/diagnosis/coldtype/
4）漢方セルフメディケーション　カゼ（経過別）
https://www.kampo-self.jp/diagnosis/coldtime/
5）伝統医薬データベース（富山大学和漢医薬学総合研究所）
https://dentomed.toyama-wakan.net/ja/#bottom

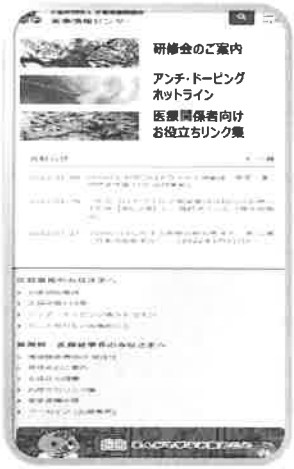
薬事情報センターのページ

“新しく”、“正しい”医薬品等情報の入手と提供（第20回）

どうしてる？！
『漢方処方』の服薬指導につなげる情報入手
～最新の医薬品・医療情報を電子的に入手、活用する～

薬事情報センターWebサイトは、スマートフォンでも閲覧可能です。

薬事情報センター Webサイト
〈スマホ画面〉



※本情報は、2022年12月５日現在の知見に基づいて執筆。
※各サイトは、2022年12月５日に確認。

新興感染症である新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が2020年１月に本邦で報告されて以来、世界中の研究者や医療者が病態や治療法の解明に取り組んできました。３年経った現在では、新しい医薬品が、予防や治療に用いられるようになりました。一方、既存の方法や治療薬での対応により、治療効果を上げているものもあります。今年になり、感染性の強い変異株であるオミクロン株が流行し、罹患者の絶対数増加に伴い、より多くの方に漢方薬も処方されるようになりました。中でも、スペイン風邪が流行した際に使われた“柴葛解肌湯（さいかつげきとう）”の代用として小柴胡湯加桔梗石膏と葛根湯の合方や、後遺症に補中益気湯や人参養栄湯が処方されるようになっております。そこで、今回は、インフルエンザ感染症も含め、感冒等における漢方薬の使い分け～症状、発症後の経過時期等～について、薬剤師から医師に情報提供、或いは患者さんに服薬指導するために、情報入手する手段について、ご紹介します。

１．公的機関・大学・学会等の発信情報を参照する

いろいろな機関から情報発信がされている中、次のようなサイトでは、わかりやすく解説されており、用途別に参照、活用できるので、いくつかのサイトを事例と共に紹介する。

■公的機関の事例：「漢方セルフメディケーション」　国立医薬品食品衛生研究所

https://www.kampo-self.jp/

漢方処方の選択では、病期（病状の経過）及び証（体力、症状等）等により使い分けることが多い。例えば、感冒に使われる漢方処方は、本号掲載の「お薬相談電話事例集No.139」で引用した「漢方セルフメディケーション」がわかりやすい図を示している。

・かぜ〈経過別〉https://www.kampo-self.jp/diagnosis/coldtime/

病期をひき初め、中期（３～５日）、こじれた時の３つの段階に分類。加えて、それぞれにおいて、証（体力・体質）を虚弱から充実で推奨処方が図示されている。

・かぜ〈症状別〉https://www.kampo-self.jp/diagnosis/coldtype/

感冒に伴う症状は、咳・痰、熱、頭痛等、多岐にわたる。加えて、それぞれにおいて、証（体力・体質）を虚弱から充実で推奨処方が図示されている。

■大学の事例：「伝統医薬データベース」　富山大学和漢医薬学総合研究所

https://dentomed.toyama-wakan.net/ja/

処方の位置づけ、構成生薬の薬理等が参照できる。

・【漢方方剤】のページ　https://dentomed.toyama-wakan.net/ja/漢方方剤/

では、処方名を入れ検索すると、構成生薬、適応病態、適応疾患、原典、条文、に加え、備考として簡単な解説

や一般用漢方製剤製造販売承認基準収載の有無も、記載されている。

例えば、スペイン風邪で使われ、今回の新型コロナウイルス感染症でも注目されている「柴葛解肌湯」を検索すると、次の様な情報が表示される。

構成生薬	柴胡、葛根、麻黄、桂皮、黄芩、芍薬、半夏、生姜、(ヒネショウガ)、甘草、石膏
適応病態	体力中程度以上で、激しい感冒様症状を示すもの
適応疾患	発熱、悪寒、頭痛、四肢の痛み、口渇、不眠、鼻腔乾燥、食欲不振、はきけ、全身倦怠
原典	勿誤薬室方函口訣
備考	一般用漢方製剤製造販売承認基準掲載

構成生薬には、大学で履修し聞いたことのある生薬名が表示されている。生薬の名前をクリックすると、生薬情報に遷移する。生薬毎に、薬理作用、臨床応用、頻用疾患等々の概略も掲載されている。処方箋で漢方処方された際、何故この処方が出されたのかを構成生薬を基に考え患者さんに伝えられるのは、薬剤師の強みである。

・【疾患別頻用漢方方剤】のページ　https://dentomed.toyama-wakan.net/ja/疾患別頻用漢方方剤/

で、例えば、「風邪症候群」を検索すると、陰陽虚実で漢方方剤名がマッピングされている。実から虚に向かって、麻黄湯＞葛根湯＞桔梗石膏＞柴胡桂枝湯＞桂枝湯＞麻黄附子細辛湯≒香蘇散等がグラフで可視化されている。実際、臨床現場でも、子供には麻黄湯、高齢者には麻黄附子細辛湯や香蘇散が使われており、患者毎にリスク管理する際にも参考にできる。

■学会の事例：「漢方EBM」(日本東洋医学会)

http://www.jsom.or.jp/medical/ebm/index.html

近年は、EBM（Evidence Based Medicine）に基づいて、薬剤の有用性を評価することが行われるようになり、漢方薬についても、その手法を取り入れて、疾患毎に処方選択の参照化の試みが行われている。日本東洋医学会では、これら西洋医学的な見地で漢方処方の臨床データを評価し、本サイトに掲載し、随時アップデートされている。

また、COVID-19については、日本感染症学会が2020年３月に特別寄稿として「COVID-19感染症に対する漢方治療の考え方」を発信し、現在改訂第２版を掲載している[3)]。

2．エキス剤等の漢方製剤について、PMDA、製薬会社サイトを参照する

医療用及び一般用医薬品の漢方製剤については、次のサイトが参考となる。

■『電子添文（電子化された添付文書）』(PMDA)

PMDAのサイトでは、医療用医薬品、及び、一般用医薬品・要指導医薬品について、最新の情報が確認できる。漢方製剤は、同名の処方であっても各社構成生薬や配合が異なるし、効能効果も異なっている。

例えば、新型コロナウイルス感染症で話題となった柴葛解肌湯（小太郎漢方製薬）は、一般用医薬品として販売されている。電子添文で、この薬の構成生薬を確認すると、サイコ４g、カッコン・ハンゲ各3.2g、マオウ・ケイヒ・オウゴン・シャクヤク各2.4g、ショウキョウ0.4g、カンゾウ1.6g、セッコウ6.4gとなっている。医療用医薬品の小柴胡湯加桔梗石膏と葛根湯の合方は、あくまでも代用であることが確認できる。

■漢方薬の製造販売会社　医療関係者用サイト

各社、サイト構築では大変工夫されており、古典解説から最新学会の情報、症例検討等、日々更新されており参考となる。処方名や生薬名での全文検索も可能なサイトもあり、臨床適用、識者の解説（症例提示、古典の音声解説、処方解説他）、わかりやすい解説と共に、必要な情報を入手できる。

3．漢方薬について学習し、服薬指導や処方提案につなげる

前述の通り、各種Webサイトから情報を容易に入手することができるようになった。一方、体系的に学ぶことで、より患者さんに寄り添った服薬指導や処方提案につなげることができるので、いくつかその手段を紹介する。

■セミナー、研究会、学会でのインプット

・レクチャー型研修の受講：各地域薬剤師会や製薬会社等が開催する研修会やセミナーを利用できる。オンラインでの開催も増えており、学ぶ機会は増えており、敷居が低くなっている。

・漢方を学べる研究会への参加：直接、漢方診療医師や漢方薬局薬剤師の講師から講義を受ける。質疑も可能である上に、メンバー間で意見交換できるため、学習意欲のモチベーション維持には有用である。広島県には幸い「広島漢方研究会」（日本薬剤師研修センター　漢方薬・生薬認定薬剤師制度　「必須研修」対象研修会）という学びの場がある。本研究会は、毎月月例会を実施しており、本号：諸団体だよりの活動内容を参照されたい。

・学会への参加：日本東洋医学会や東亜医学協会等は、漢方医学、西洋医学の両方のアプローチでの学術大会の実施や学会誌発行もあり、継続的にインプットできる。

■漢方薬・生薬認定薬剤師制度（日本薬剤師研修センター）での学習、認定薬剤師の取得

日本薬剤師研修センターと日本生薬学会が実施する研修を修了し、試験に合格すると「漢方薬・生薬認定薬剤師」として認定される。研修は、漢方薬、生薬、生産・流通等々、漢方薬を取り巻く多岐に渡る内容を９回の講義研修会と、日本全国の薬草園の中から、好きなところを選べる薬草園実習となっている。興味のある方は、是非、受講し、認定薬剤師にも挑戦いただきたい。

■文献、書籍

症例報告や薬理的な作用メカニズム等新しい報告については、文献検索サイトを利用する。そして、処方提案や服薬指導につなげるためには、やはり、原典や参考書籍に戻り、漢方の考え方や処方意図などを学習されたい。

・文献検索サイト

無料の文献検索サイトとして、J-STAGE、CiNii等があり、薬事情報センターWebサイトでは「お役立ちリンク集―医薬品情報　データベース」にリンクを紹介しているので、活用されたい。これらサイトを活用、検索すると、文末の引用文献［感冒及びCOVID-19に対する漢方処方に関する文献他］等を入手できる。

・書籍

漢方医学の変遷について、古典、及びそれらの参考書が数多くある。初心者向けについては、既報で紹介した、薬事情報センターのページ「まずは一歩ふみ出そう！漢方へのいざない」（広島県薬剤師会誌 Vol.44 No.4 p65-68　2019）内の参考書籍を参照されたい。

最後に

今直面しているCOVID-19は、起源株からデルタ株までとオミクロン株では、病態が変化してきていることの認識が必要である。流行初期には、肺におけるサイトカインストームによる重症化が転帰に大きく寄与していたが、オミクロン株では、上気道で増殖しやすい特性から咽喉頭痛等が増え[1]、そのために食事がとれないことによる重症化が、特に基礎疾患を合併する患者や高齢者に多く起こっている。加えて、易感染性のために患者数自体が増加し、それに伴い軽症にもかかわらず後遺症を訴える患者数増加も、課題となってきている。

感冒及びCOVID-19に応用されている漢方薬として、初期症状である発熱、頭痛がある場合に、麻黄湯、葛根湯、桂枝湯、高齢者は麻黄附子細辛湯、少し病期が進んで往来寒熱*や口が苦い等の症状があれば柴胡剤（小柴胡湯、柴胡桂枝湯他）、COVID-19のオミクロン株で訴えが多かった咽喉頭痛を伴う場合には桔梗石膏、回復期には、補中益気湯や十全大補湯、咳や痰には清肺湯、麦門冬湯、竹茹温胆湯、また、病後、或いは後遺症には、人参養栄湯、加味帰脾湯、桂枝加竜骨牡蛎湯等を、病期や証にあわせ処方選択が行われるので、引用文献等も参考にし、確認されたい[2)3)4)5)6)]。加えて、COVID-19の急性期に漢方薬で治療し、発熱緩和、重症化抑制等の有用性が東北大学から報告されており[7)8)]、更なる研究成果の公表が期待される。

＊往来寒熱：寒と熱が相互に往来するの意で、悪寒が止んで熱がのぼり、熱が止んで悪熱がする。少陽病の熱型（新版「漢方医学」大塚敬節著　創元医学新書　p88より引用）。

電子的な情報源　一覧

1．公的機関・大学・学会等

「漢方セルフメディケーション」 国立医薬品食品衛生研究所
https://www.kampo-self.jp/
・かぜ〈経過別〉https://www.kampo-self.jp/diagnosis/coldtime/
・かぜ〈症状別〉https://www.kampo-self.jp/diagnosis/coldtype/

「伝統医薬データベース」 富山大学和漢医薬学総合研究所
https://dentomed.toyama-wakan.net/ja/
・【漢方方剤】のページ　https://dentomed.toyama-wakan.net/ja/漢方方剤/
・【疾患別頻用漢方方剤】のページ　https://dentomed.toyama-wakan.net/ja/疾患別頻用漢方方剤/

「漢方EBM」（日本東洋医学会）
http://www.jsom.or.jp/medical/ebm/index.html

2．電子添文（電子化された添付文書）（PMDA）

医療用医薬品
https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/

一般用医薬品・要指導医薬品　添付文書等
https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/otcSearch/

3．学習、文献検索

漢方薬・生薬認定薬剤師制度（日本薬剤師研修センター）
https://www.jpec.or.jp/nintei/kanpou/index.html

文献検索サイト
科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja

文献検索サイト
CiNii Research 一論文・データをさがす（国立情報学研究所）
https://cir.nii.ac.jp/

引用文献

1）新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き第8.1版（2022年10月）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00111.html#h 2 _free 4

[感冒及びCOVID-19に対する漢方処方に関する文献他]

2）加藤士郎「感冒の漢方治療」 ファルマシア，56（3）208-212（2020）
3）小川恵子「（特別寄稿）COVID-19感染症に対する漢方治療の考え方（改訂第2版）」，（2020）
https://www.kansensho.or.jp/modules/news/index.php?content_id=147
4）渡辺健治　他 「COVID-19に対する漢方の役割」 日本医事新報　No.5008，44-51（2020）
5）入江康仁　他 「ウイルス感染症のパンデミックに対して漢方薬の果たす役割―スペインかぜから学ぶ―」 日東医誌　71（3）272-283（2020）
6）小野理恵　他 「新興呼吸器感染症管理における漢方の概念と可能性について」 日集中医誌　28（5）429-435（2021）

7）Shin Takayama, et al. Conventional and Kampo Medicine Treatment for Mild-to-moderate COVID-19: A Multicenter, Retrospective, Observational Study by the Integrative Management in Japan for Epidemic Disease (IMJEDI study-Observation),
https://doi.org/10.2169/internalmedicine.0027-22
8）Shin Takayama, et al. Multicenter, randomized controlled trial of traditional Japanese medicine, kakkonto with shosaikotokakikyosekko, for mild and moderate coronavirus disease patients. Front. Pharmacol. 09 November 2022,
https://doi.org/10.3389/fphar.2022.1008946

ご案内

薬事情報センター Web サイトでは、最新の医薬情報等の入手のために「お役立ちリンク集」をご用意しております。今回のような“新興感染症の最新知見”の情報入手ツールとしても、是非、お役立て下さい。

〈掲載場所〉：薬事情報センター Web サイト＞お役立ちリンク集　https://hiroyaku.jp/di/links/

〈お役立ちリンク集　サイト一覧〉
★今回使用したサイト

	大分類	リンクされている情報
	感染症情報	広島県のローカル情報、感染症関連情報、AMR 等
	医薬品　適正使用情報	医薬品の安全性関連、妊娠・授乳と薬情報
	プレアボイド関連サイト	薬局ヒヤリ・ハット事例、医療事故情報事例
★	医薬品情報　データベース	医療用医薬品／一般用医薬品情報検索、承認情報、新薬情報、保険適応、適応外保険適用、セルフメディケーション、文献検索（J-STAGE、CiNii）
★	医薬品関連サイト	厚生労働省、PMDA、製薬協、日薬連、日漢協、PhRMA、ジェネリック製薬協
	医療関連サイト	各種疾患病態治療に係る情報、Minds ガイドラインライブラリ
★	もっと知りたいお薬のこと	**県民向けにわかりやすい内容で、患者説明時に活用できる** 薬のしおり、セルフメディケーション、健康食品、健康情報、海外渡航時の医薬品の携帯持込等、海外渡航時感染症
	医療相談・医療機関検索	**県民向けに相談先を紹介** 医療安全支援センター、心の電話相談、医療機関検索
	中毒情報検索	**中毒発生時の一次対応情報**（中毒情報センター）、食中毒
	アンチ・ドーピング関連	ドーピング禁止薬検索サイト、薬剤師のためのガイドブック スポーツファーマシスト検索、関係機関